

メディアリリース (2009年10月8日)

幕末の日本とスイス間の通商条約締結の舞台裏

歴史的 事実が明らかに

—DKSH ジャパン×横浜開港資料館

「ブレンワルド・ダイアリー」翻訳プロジェクト

幕末から明治に横浜で活躍したスイス通商使節団員のカスパー・ブレンワルド(1838~1899)の日記(約16年間分、全548頁)の一部から、1864年2月6日の日瑞通商条約締結に至るまでに、スイス連邦政府が両国間の条約締結に向け、積極的に働きかけている様子が明らかになりました。

これは、DKSH ジャパン株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長 ヴォルフガング・シャンツエンバッハ)が横浜開港資料館(所在:神奈川県横浜市中区、館長高村直助)の協力を得て、当社創業者でもあるブレンワルドの日記の全翻訳プロジェクト(ブレンワルド・ダイアリー翻訳プロジェクト)を2008年3月末に開始し、分かったものです。このプロジェクトは、横浜開港150周年を機に、この日記が歴史的事実の裏づけの一助となり、歴史的発見に貢献できればという願いから始まっています。プロジェクト開始から約一年半が経った現在、スイスと日本が通商条約を締結する以前にブレンワルドが様々な活動を既に始動させていたことが翻訳の過程で明らかになってきました。

日記には、1863年の8月にスイス連邦議会から神奈川奉行所を通して、江戸城にスイス製の最新型特注消火ポンプを献上したとの記載があり、在日スイス大使と外国奉行(現在の外務大臣のような役職)が消火ポンプの話を変えながらやりとりをしている様子など、日瑞通商条約締結の進捗状況の一端が記されています。

また、同年12月にはブレンワルドの指揮のもと、ヨーロッパの工業製品などを紹介した展示会を開催した様子も記載されています。当時の新聞で「ブレンワルドの手腕により展示会は日本人の関心を引くように巧妙につくられ、その内容はロンドンの大博覧会にも匹敵し、次のニュースは条約交渉成功か?」といった記事の掲載内容も残っており、日本とスイスの貿易開始のために、様々な施策を講じていたことがうかがえます。

日記は、ドイツ語を中心にフランス語、英語、イタリア語、オランダ語と多岐に亘る上、政治、経済、文化、歴史、そして日常生活と多くの事象が複雑に織り交ぜられた内容であることが徐々に判明し、翻訳終了まで計4年の歳月がかかる見通しとなっています。今後は、ブレンワルドが当社をどのようにして横浜に設立し、貿易ビジネスを立ち上げたか、また、彼の目から見た開港後の横浜の様子も明らかになると予想されています。

当時の日本とスイスの通商の記録は珍しく、「ブレンワルド・ダイアリー」の翻訳及び資料は、翻訳完了予定の2012年には横浜開港資料館で展示会の開催及び一般の皆様への公開を目指しています。

<ブレンワルド・ダイアリー翻訳プロジェクト 概要>

ブレンワルド・ダイアリーとは、1862年にスイス連邦政府が編成した通商使節団の一員で、当時商務部責任者として日本に派遣されたカスパー・ブレンワルド（当社の創業者）が、1862年10月から1878年2月までの約16年間、江戸末期の日本とスイスの通商条約など政治的出来事や当時の社会状況、生糸・茶などの貿易取引などについての日々を、全5冊548ページに記したものです。ドイツ語を中心にフランス語、英語、イタリア語、オランダ語と国際色豊かな当初の書簡の行き来をもうかがいすることができます。この日記を書いたカスパー・ブレンワルドは、日本に到着したときは若干24歳の青年でした。

このダイアリーに関する資料は、スイス本国の当社創業者一族とスイス連邦公文書館に保管されていました。横浜開港とほぼ時を同じくして横浜に創業した当社の歴史が重なることを貴重な事実としてとらえ、歴史的発見に貢献できればとの願いから、2008年3月末より、横浜開港資料館の協力のもと、ブレンワルドの日記全翻訳プロジェクトに着手しています。

ブレンワルド・ダイアリー翻訳プロジェクトメンバーは日本女子大学文学部教授井川克彦氏、横浜開港資料館館長高村直助氏、同館主任調査研究員西川武臣氏他3名。翻訳は、多くの歴史文献の翻訳を手がける生熊文氏（ドイツ在住）が中心となり進められています。メンバーは定期的集まり、翻訳をもとに歴史的背景及び、翻訳言語内容の検証などを進めています。

<横浜開港資料館>

横浜開港資料館は、開港百年を記念して編さんされた「横浜市史」の収集資料を基礎に、1981（昭和56）年6月2日の開港記念日に開館。横浜の歴史に関する資料の収集、閲覧・展示・出版などにより一般に公開をする施設です。19世紀半ばから関東大震災に至る時期を中心に資料の充実に努め、現在、公私文書の記録、新聞雑誌、写真や浮世絵など25万点を越える資料を収集しています。資料を通じて横浜の歩みなど次の世代に伝える「近代都市横浜の記憶装置」としての役割を果たしています。

<DKSH ジャパン（旧日本シイベルヘグナー）>

DKSH ジャパンは日本における最初の外資系商社の一つとして1865年（慶応元年）に横浜で創業した「シイベル・ブレンワルド商会」を継承し、以来140年以上にわたって、日本とその文化に貢献してきました。当時「横浜甲90番館」と呼ばれた商館は日本の生糸取引の中心となり「生糸王国日本」を築きあげる上で大きな役割を果たしました。また、日本最初のガス灯のためのガスプラント設置にも貢献し、明治中期には時計・機械などの輸入を開始するなど、日本に根ざしたスイス系商社として多くの足跡を残してきました。

また、ヨーロッパとアジアという二つの文化の間で調整役を担いながら、お客さま、ビジネスパートナーの皆様からの変化し続けるニーズにお応えし、質の高いサービスをご提供することを目的としてきました。

2009年4月に社名を日本シイベルヘグナーからDKSH ジャパンに改め、スイスに本社を置くDKSH グループの一員として、またマーケット

エクспанションサービスカンパニーとして、日本では消費財、生産資材、テクノロジーの 3 つの事業部門がビジネスを展開しています。2008 年度売上高は 356 億円です。

<DKSHグループ>

DKSH グループはチューリッヒに本社を置くスイス企業です。140 年以上も前からアジア太平洋全域の地域社会に深く根ざし、ビジネスを展開してきた長年の歴史と伝統を有しています。

特にアジア市場に焦点を当てたマーケットエクспанションサービスグループとして、新たな市場や既存の市場でのビジネス拡大を模索する企業やブランドの事業展開を支援しています。

DKSH グループは、消費財事業部門、ヘルスケア事業部門、生産資材事業部門、テクノロジー事業部門の 4 部門で事業を展開しています。グループでは、調達、マーケティング、販売、流通、アフターサービスを組み合わせ、包括的パッケージサービスとしてご提供しています。これによりビジネスパートナーの皆様へ専門知識と独特の規模と奥行きのある幅広いネットワークに基づいた現地ロジスティックスの提供が可能となります。

世界 35 カ国（うち 20 カ国はヨーロッパ・アメリカ）に 460 のビジネス拠点を有し、約 22,000 人の専門スタッフを擁しています。売上高及び従業員数においては、スイス企業のトップ 20 にランクインしています。また、2008 年のグループ年間売上高は 8,000 億円（84 億スイスフラン）となりました。

※この資料は、横浜市政記者クラブに同時配布しております。

本件に関する連絡先:

DKSH ジャパン株式会社

マネージメント・サービス 広報担当

三井・小柴

Phone 03-5730-7345 Fax 03-5730-7333

www.dksh.com/japan

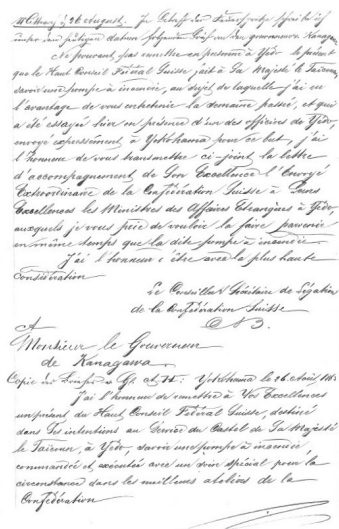
参考資料

カスパー・ブレンワルド（1838～1899）：

スイス・メンネドルフ出身。1863年スイス政府派遣の通商使節団に公使館参事官の身分で参加。スイス・チューリッヒ出身で英国にてビジネスを学んだヘルマン・シibelをパートナーに選び、1865年（慶応元年）シibel・ブレンワルド商会を設立。ブレンワルドは駐日スイス総領事を兼任した。


横浜甲 90 番館（1866～1923）：

1866年に天皇より横浜において土地を入手する権利を与える。シibel・ブレンワルド商会の当時の横浜本社兼スイス領事館。


ブレンワルド・ダイアリー

（1863年8月26日該当書簡部分原文：仏文）